

# 葛飾・生活者ネットワークが 実現したい葛飾



## 介護・医療・福祉の連携で だれもが安心して暮らす

- 地域包括ケアシステムを拡充する
- ホームホスピスなど、緩和ケアや看取りを含む在宅医療の充実をはかる
- 地域で安心して暮らせる住まいを保障する
- 介護する人を支える「ケアラー支援条例」をつくる
- だれもが相談できる「みんなの相談室」をつくる
- 介護従事者の社会的・経済的地位を向上させ、働きやすい体制を整える
- 在宅サービスの情報を提供し、利用者が選べるしくみをつくる
- ひきこもり当事者と家族を支えるネットワークを支援する
- 保健所の人員を増やし、体制を強化する

## 食の安全と都市農業をまもる

- ゲノム編集食品について表示を義務づける
- 学校給食と学校農園を活用し、食農教育をすすめる
- 地産地消をすすめる、都市農業と農地をまもる
- 学校給食に有機農産物を導入する
- 災害時の防災空間、雨水浸透、ヒートアイランドの抑制、農福連携といった多面的な機能を持つ農地を保全する

## 憲法を活かし、 ひとりひとりから平和をつくる

- 子どもたちに平和への思い・戦争体験を継承する
- 多文化共生社会をめざす

## 命・暮らし・遊び・学び — 子どもの権利を保障する — 「子どもの権利条例」制定

- インクルーシブ教育をすすめる
- 外国にルーツを持つ子どもたちへの日本語学習の機会を増やす
- 虐待、いじめ、体罰をなくす
- スクールソーシャルワーカーを増やす
- 校則の調査と子どもによる見直しをすすめる
- 夜間中学やフリースクールなど、多様な学びの場を支援する
- 経済的な事情に関わらず、だれもが利用できる学習支援をおこなう
- 地域に密着した子どもの居場所や子ども食堂を支援する
- 希望する全員が入所できるように学童保育を増設し、保護者が安心して働けるよう指導員や保育環境を充実する
- ❖ 子どもの育ちを応援する「かつしか・こども基本条例」をつくる
- ❖ 学校給食を無償化する

## 未然防止の視点と子ども基準による 化学物質対策をすすめる

- 香料による健康影響を周知し「香害」をなくす
- グリホサートなどを主原料とする除草剤の使用を規制し、公共施設や通学路では使わない
- 化学物質についてリスクコミュニケーションの取り組みをすすめる

## 大事なことは市民が決める

- 公共施設の整備・建て替えは市民参加ですすめる
- まちづくりに子どもが参加するしくみをつくる
- 市民の知る権利を保障するため、情報公開を徹底する
- 多様な市民の声を反映できる議会をつくる

## 障がいのあるなしにかかわらず、 ともに暮らせるまちをつくる

- 「障がい者差別解消条例」をつくる
- 移動を確保し、居場所をつくり、障がいのある人の社会参加を保障する
- 障がいのある人も共に働く場を増やす
- 障がい児が高校卒業後に通える通所施設を増やす
- 医療的ケア児が安心して学校に通えるよう医療スタッフを適正に配置する
- 障がい児の装具や車椅子などの生活必需品を成長に合わせて作りかえられるようしくみをつくる
- だれもが自分の持てる力を発揮できる地域をつくる

## 積極的な気候変動対策を実行し、 持続可能な環境を次世代にわたす

- 省エネと再生可能エネルギーの利用を進め、脱原発と2030年CO<sub>2</sub>削減50%以上を実現する
- 既存建築物及び新築建築物のZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)・ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化をすすめる
- プラスチックを削減し、リデュース、リユースをすすめる
- マイクロプラスチック汚染を減らす
- 雨水の地下浸透・循環利用をすすめる、水資源を有効活用する
- 自転車を活用したまちづくりをすすめる

## 人権を尊重し、多様性を認めあう地域をつくる

- ジェンダー平等をすすめる
- SOGI(性的志向・性自認)・LGBTQを尊重し、パートナーシップ制度をつくる
- 被害の救済・支援のしくみを整え女性の人権をまもる
- セクハラ、DV、性暴力をなくす
- 人権・生命尊重の視点からの性教育をすすめる

## 切れ目のない支援で 子ども、若者、女性の貧困対策の充実をはかる

- 教育格差をなくす
- 給付型奨学金制度を拡充する
- 非正規雇用と正規雇用と同等の権利を保障し、同一価値労働同一賃金の労働環境を整備する
- 一人ひとりの実情にあわせた若者支援をおこなう
- ひとり親家庭や単身女性向けの就労支援制度をつくり、正規雇用への転換をはかる

## 水害・地震・感染症に備える災害対策をすすめる

- 避難所をだれもが利用できるインクルーシブな環境にする
- 避難所運営における女性の参画をすすめる、性暴力のない安心して利用できる避難所をつくる
- ペットとの同行避難ができる避難所を増やす
- 感染症対策として、分散避難できる体制を整える
- 災害用備蓄に液体ミルクやアレルギー対応食などの導入をすすめる
- 地区防災計画づくりにアドバイザーを派遣する
- 災害弱者に対する個別避難計画の充実をはかる
- 浸水や水難事故から身を守るための教育をすすめる

## 担い手確保のために基本報酬の引き上げを！ 介護保険制度に迫る存続の危機

介護の社会化と利用者の権利保障を目的として開始された介護保険制度は今、介護人材の不足により深刻な状況にあります。介護保険は高齢者だけの問題ではなく、支える家族にとっても重要な制度です。必要なサービスを受けられなければ、家族の負担軽減にならないばかりか、子育てや仕事などにも影響が出て介護離職が増え、利用者と家族の生活も破綻しかねません。介護職員の賃金は全産業平均より約4万円も低く、処遇改善加算だけでなく基本報酬を上げることが急務です。誰もが安心して利用できる介護保険となるよう、国や自治体に働きかけていきます。

**2000年**  
制度開始の目的は介護の社会化と  
利用者の権利保障

・それまでの家族介護から、  
介護が必要な人を社会全体で支える構造へ  
・行政が決定したサービスを受ける制度から、  
保険料の負担を要件に自らサービスを選ぶ  
社会保険方式へ、しくみの変更で利用者の  
権利を保障

**2022年**  
介護事業者の倒産が過去最多を記録

東京都が2025年には必要数に対し約14%  
の介護人材が不足すると試算  
コロナ禍の利用控えと物価高騰による経営の  
圧迫だけでなく、ヘルパーなどの人材不足と  
高齢化により次の担い手が見つからないため  
事業の継続が難しいという声もあがっている

今後…  
介護難民の拡大によって  
家族介護者の負担増、  
介護離職の増加が危惧される

高齢者だけではなく  
社会の問題

## まちづくりに子どもたちの声を 子どもに聞こう! 公園調査を実施しました

子どもが利用する公園をはじめ、まちづくりに子どもたちの声が反映されることはほとんどありません。本来は利用者である子どもたちの声を活かした公園づくりやまちづくりがすすめられる必要があります。これからの公園づくりにいかしていこうと、区内の公園で利用者の声を聞き取るプレ調査を行いました。



- 好きなところ……■広いところ ■セミや生き物が多いところ ■ラジオ体操で毎日使っている  
嫌いなところ……■トイレが暗い ■ボール遊びができないところが多い ■ゴミが散乱していることがある  
要望……■雨宿りできる場所、芝生や水辺の生きものがある場所が欲しい ■Wi-Fiが使えたらいい など  
保護者の声 ■安全第一で遊具による怪我があると撤去されているが、それではしたい遊びはできない。  
■インクルーシブは施設や物よりも人の意識が変わらないとうにもならないと思う。 など

2022年、国会において「こども基本法」が成立しました。諸外国では子どもの意思決定を尊重し、主権者の一人としてまちづくりに参画するためのさまざまな取り組みが行われ、子どもたちは幼少期から合意形成を学ぶ機会に触れています。おとなが子どもの参加を促し、意見表明の権利を保障することは子どもが育つ過程において大切なことです。生活者ネットワークでは公園調査などの活動を通じ、子どもの意見や要望を踏まえた政策を提案していきます。

